

## テーマ 「 遊休農地解消の取り組み 」

出雲市斐川町農業委員会

### 活動内容

斐川地域においては、ほ場整備事業によって恵まれた営農環境が整い、集落営農組織や担い手農家への集積が進み、遊休農地が少ない現状にあります。ほ場整備が行われていない畑地帯や南部の丘陵地においては、遊休化する傾向にあります。



毎年実施する利用状況調査によって、管理が不十分な農地の所有者に対して指導を実施していますが、指導によって営農の再開につながる事例は少なく、地元の農業委員と事務局、農業公社等が連携しながら周辺の営農組織や担い手農家等への斡旋や仲介をしながら遊休農地の解消を図っています。

### 取り組み結果

所有者の居住地と農地との距離が遠いために遊休化した農地について、その農地の周辺を耕作する営農組織に打診を行い、双方の条件を調整しながら平成26年からの水稻栽培ができた農地や施設園芸の廃業によって長期間放置されていた廃ハウスを撤去して水田に復元することによって、平成26年から担い手農家によって営農再開につながった事例があります。

### 会長コメント

今日の農業情勢においては、すべての農地を維持しながら営農を継続していくことは困難です。営農条件の良い農地は、農地中間管理機構や農業公社を通じた担い手への集積によって営農を継続することが不可欠ですが、条件の悪い農地は、周辺の環境を考慮しながら「非農地」として取り扱うことによって農家の負担軽減を図っていくことが必要です。

## テーマ 「 農業体験『米米たんぼ』の取組支援 」

出雲市斐川町農業委員会

### 活動内容

斐川町農林事務局では、子どもたちに食の大切さを学び、農業に関心を持ってもらうことを目的に、毎年、出雲市斐川町内の小学生を対象として『米米たんぼ』を実施しています。今年は、町内の2校の4年生、5年生の児童約140人が、ほ場を管理する地元の営農組合の指導のもとに、5月の田植えと9月の稲刈り作業を行いました。農業委員も当日はほ場に入り、苗の植え方、鎌の使い方を手取り、足取りで指導を行いました。



このほ場を含む周辺のほ場で生産された水稲は、学校給食用に供給するため、減農薬、減化学肥料で栽培されています。

この日も作業後には給食センターから配達された、地元食材を中心に献立を組んだ特別給食を子どもたちと一緒に食べました。

### 取り組み結果

機械化が進んだ今日、農家の子どもでも農作業を手伝うことはほとんどなくなっており、米がどのようにしてできるのか知らない子どもが多い時代になっています。農作業を体験することによって、米(食糧)のありがたさ、農業が大変であることや大切なことを理解してくれたものと思います。

また、水や環境の大切さを学ぶきっかけになることを期待しています。

### 会長コメント

農業委員であっても手作業による田植えや稲刈りをする機会はほとんどなくなっており、家庭でも農業について話をすることは大変少なくなっています。子どもたちも学校教育の中でしか農業を学ぶ機会がない時代になっており、今後も農業委員会として全面的に協力をしていきたいと考えています。